



身近な出来事で歴史の重みを感じることを3点ご報告します。

1点目は、「北海道」と命名されてから今年で150年の節目を迎えようとしています。これを機に「そばのまち新得」のPRのためにも「第17回しんとく新そば祭り」との併催により「北海道そば祭り」を開催することで準備を進めています。

2点目は、新得農業協同組合が創立70年（昭和23年設立）を迎えました。基幹産業の農業を育ててきた功績は農業者自らの努力はもちろんのことで、役員が一丸となって積み重ねてきたことが大きな力になっていると思います。先人の努力に感謝を申し上げますとともに、今後の農業の発展に強く期待をするところです。

町長室から こんにちは

新得町長 浜田正利

No. 5 知る知る 新得町

町民の方にご紹介！
知りたい情報をご紹介！
あなたはどの情報を
知っていますか？

新得町図書館ボランティア おはなし会スキップ

毎月2回、子どもセンターなかよしで絵本の読み聞かせを行っているボランティアグループを皆さんは知っていますか？

このグループが新得町図書館ボランティアおはなし会「スキップ」です。今回は「スキップ」をご紹介します。

【どんな目的で結成？】

「おはなし会スキップ」が結成されたのは、平成5年3月。地域の女性5人で結成されました。結成のきっかけは読み聞かせボランティアを立ち上げたいという図書館利用者からの申し出でした。

おはなし会などの活動を通し、本に対する興味を深め、子どもばかりではなく、お年寄りなど町内の読書推進のために現在は8人のメンバーで活動しています。

なお、平成17年には優良読書グループ表彰の道地域活動振興協会理事長賞を受賞しています。



おはなし会の様子

【どんな活動をしている？】

現在、子どもセンターなかよしで毎月第2、第4金曜日の午後3時15分から幼児、小学生を対象に絵本の読み聞かせや紙芝居を行っています。また、年1回スペシャルおはなし会として巨大紙芝居やAETジエムスによる遊びコーナーなども行われています。

そのほか、高齢者施設での絵本や紙芝居の読み聞かせ、童謡を歌ったり、ブックスタートへの協力なども行っています。

本の読み聞かせを行い、本の良さを伝えてみませんか？

「おはなし会スキップ」や絵本の読み聞かせに興味を持った方は町図書館（64-5406）までお気軽にご連絡ください。

また、新得町商工会青年部も設立50周年（昭和42年設立）を迎えました。記念式典では、青年部の活躍が町を盛り上げており、会員が減少してきているものの未来につなげていくため今後も精力的に活動をしていくことのお話があり、頼もしさを感じたところです。

3点目は、宮崎県五ヶ瀬町と「そば焼酎」をきっかけに姉妹町盟約（昭和63年6月）を結んで今年で30年の節目を迎えます。特別な式典等は予定していませんが、子どもたちの交流事業の継続とともに、経済面での交流など他の分野でも結びつきが強くなるようなことも考えていきたいと思っています。

今日ある北海道、新得町は先人のたゆまぬ努力の結果であり、改めて歴史の重みに感謝するとともに、次の世代のために一層の努力をしていかなければと強く思っています。

皆さんもよろしく願います。

現在、平成30年度の予算編成を進めており、一般会計予算額は73億2千万円ほどを見込んでいます。

皆さんのご要望が少しでも実現するように予算措置を講じていますが、災害復旧もあることから、近年では予算規模がだんだんと大きくなってきており、将来世代の負担が重荷にならないようにと苦心しているところです。

予算議会は3月中旬を予定しています。皆さんのための予算なので、是非、議論をお聞きいただきたいと思えます。

郷土の歴史を
新得町郷土研究会が
ご紹介します
一緒に
歴史の散歩に
出掛けましょう

しんとく
歴史歩
No.30

藤川マキ工記念碑

社会福祉法人厚生協会わかふじ寮の基礎をつくった藤川マキ工は、明治31（1898）年11月に香川県丸亀市で生まれました。大正8（1919）年に樺太（サハリン）に渡り、大正15年に豊原市（ユジノサハリンスク）で私立藤川実践女学校を創設し、校長として女子教育に尽力されました。

戦後の昭和23（1948）年に北海道の喜茂別村に引き揚げ、農村女性のために裁縫教習所を開設しました。昭和25年6月に御影村（清水町御影）の北海道ろうあ農志塾家庭学園主任指導員となり、ここが昭和27年5月に社会福祉法人御影学園として設立認可を受けたので、引き続き同学園の主任指導員を務めました。

昭和28年4月に田中皎一と共に新得町に移り、田村政雄や社会福祉協議会などの協力を得て身体障害者授産施設わかふじ寮を創設しました。その後施設長や社会福祉法人厚生協会理事長を務めました。



藤川マキ工記念碑

理事長などを歴任したほか、昭和56年には全国に先がけて聴覚障害者養護老人ホームやすらぎ荘を開設するなど、今日の厚生協会の基礎をつくりました。

施設利用者からは、さうあ者の慈母と慕われましたが、昭和60年1月13日88歳の生涯を閉じました。葬儀には藤川実践女学校の教え子たちもお別れに訪れました。

この間、昭和35年4月に厚生大臣表彰、昭和46年4月に勲5等瑞宝章、昭和54年7月には新得町開基80周年記念式典で新得町名誉市民の称号が贈られました。

昭和61年の1周年法要に当たり、同年9月23日に、記念碑建立期成会（田中皎一会長）により新得町西3条北1丁目藤川マキ工記念碑が建てられました。

短歌

新得短歌会

クリスマス飾りつけする紙の輪を
指示するホームの老いたるこ女は
石本 洋

娜かに新年招きて庭の枝
高きに陽光舞おりて未し
奇藤美代子

うなづきも言葉のひとつ声たてず
音楽聴く夫目でものを言う
高橋 幸子

初春の窓に遊ぶ蝶のごと
シンビジュームの黄のはれやか
小野 洋子

若き人年のはじめの集まりは
しんとく歌留多取り手筆さく
小野 恭子

黄金の十五年とかあるといふ
折り返し点の我のゆく道
菊池 水月

筆やぎのカルタ余額かけさの陽は
放つ雪原感謝ばかりに
中井由利子

煙あびどんど焼きも命かけ
息を切らして上がる階段
荒本 伸一

俳句

新得俳句同好会

追伸の一筆うれし賀状かな
八木 育子

幸あれと緞帳上る初日の出
高橋 民女

映像に犬が飛び出す今朝の春
月井 愁峰

寄せ鍋に家族の絆小盃
渡辺アヤ子

忘れ得ぬ海軍服着てお正月
奇藤 青苔

アルバムの夾の狭間どんど焼き
大崎かずお

白鳥にツルも加わり十勝川
袴田ゆき男

寝正月耳をくすぐる電子音
中島 土方